

「赤い日傘」の寄贈 村山 弘義 (昭34年・法卒)

このたび、洋画家太田喜二郎の作品「赤い日傘」(100号)を母校新潟大学へ寄贈させていただきました。

現在、大学附属図書館の大規模改修工事が進んでおり、近く斬新なデザインの図書館が装いも新たに出現する運びです。

そこで、この図書館のどこかの壁にでも飾っていただければ幸甚と考え、出過ぎた振舞いの感はありましたが、人文・法・経済学部同窓会本部を通じて、大学側に絵画寄贈を申し入れ、受け入れていただいた次第です。

この絵画は、10年程前に手に入れ、私の法律事務所に飾るつもりでしたが、適当なスペースがなく、広島県の(財)蘭島閣美術館に長らく寄託してありました。

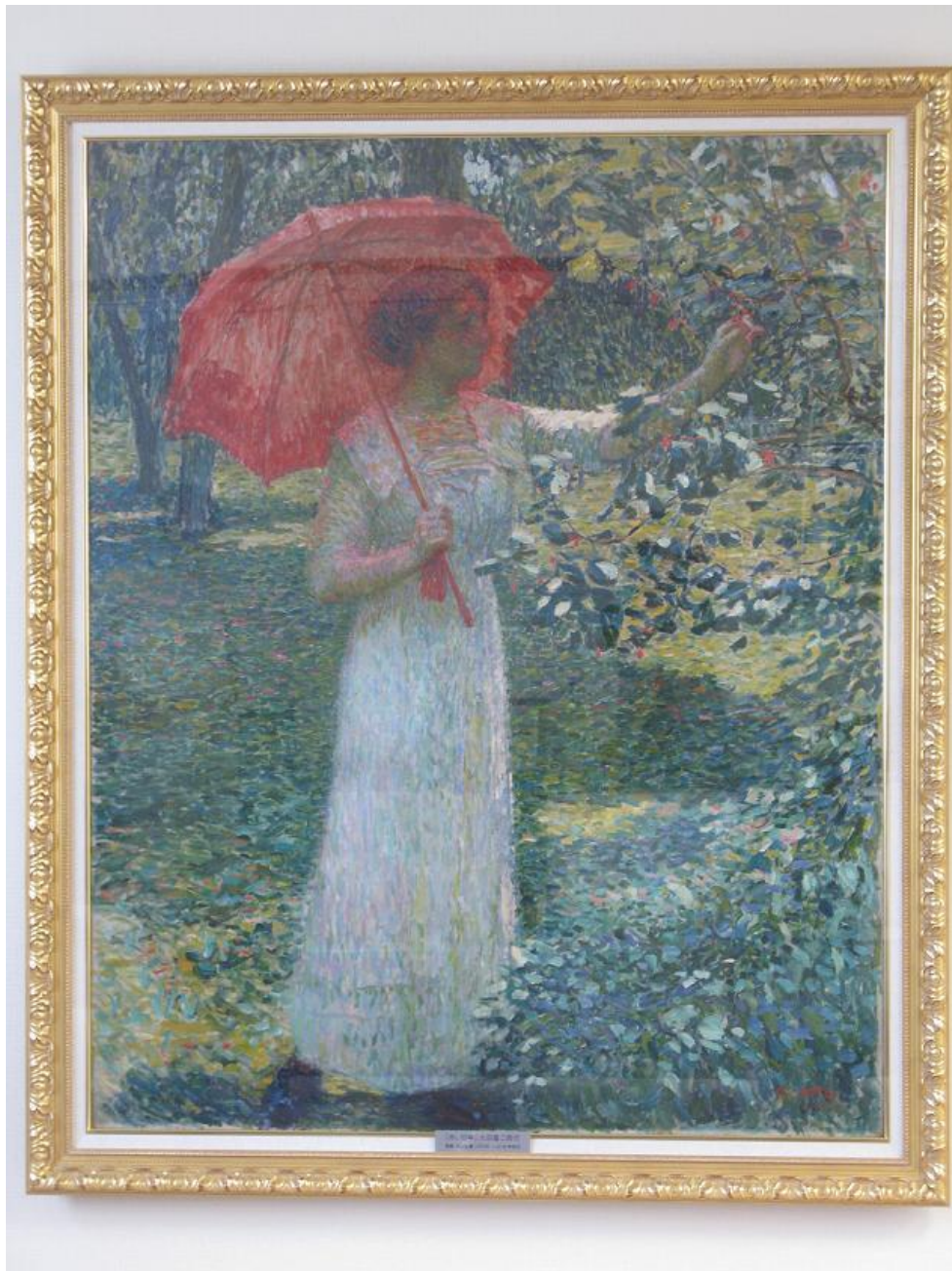
太田喜二郎画伯(1881年～1951年)のことは、私も詳しくは存じませんが、美術関係書によりますと、京都に生れ、東京美術学校で黒田清輝に師事、渡欧してベルギーの美術学校等で点描技法を修得して帰国、光風会員として画風を点描から平明な写実に変え、数々の作品を世に出し、京都学芸大学の教壇にも立って活躍、同教授現職中病により急逝、と解説されています。

欧州から帰国した年の1913年(大正2年)「東京大正博覧会」に「赤い日傘」を出品、2等賞を得たと美術関係資料にあり、私の所蔵していたのが当該作品と思われませんが、調べはついていません。

絵は、穏やかな陽光の下、赤い日傘を差して佇む洋装女性が点描技法で描かれています。同画伯のいくつかの作品は、東京国立近代美術館や静岡美術館で見ることが出来ます。

ところで、先日、新潟大学経営協会へ出席した折、下條文武学長から直々にこの絵画寄贈に対する感謝状と記念品を授与いただき、誠に思い掛けないことに恐縮、感激いたしました。

(平成24年6月吉日記)



「赤い日傘」